



日本の伝統・精神の次世代への継承

日本を護る会 レポート

平成30年6月

第31号

理事長挨拶：

平成29年度最後のレポートをお届けします。

①4月9日には例年のおり横須賀にある記念艦「三笠」と猿島の砲台跡を見学すると共に今回初めて帝国海軍横須賀鎮守府長官邸跡の海自田戸台分庁舎を訪ねて当時の状況を偲びました。

②また、5月10日には第75回定例会として外交評論家の加瀬英明氏から「人種差別撤廃を唱え、植民地解放に努めた日本」と題する御講演を戴き、元々人種差別の観念はなく、近隣諸国とも差別なく過ごして来た我が先人達が明治の開国以来の欧米との不平等条約撤廃とアジアの植民地解放に努力して来た歴史的事実についての認識を新たにしました。

③さらに、6月7日には第76回定例会として日本人として大東亜戦争を戦い、戦後は韓国人として韓国空軍の創設に努力された崔三然氏から「朝鮮半島は我が国安全保障の要ー我が国は朝鮮半島の赤化を絶対許してはならない」と題しての、我々日本人が理解すべき韓国社会の生々しい実態についての講師の90歳とは思えない熱意と迫力による、他所では聴けないの貴重なお話を戴き、日韓関係についての我々の認識を新たにすることができました。

当会は設立満10周年を迎え、来る9月1日にはこれを記念する定時総会を行います。また、総会後には駐日エルサルバドル大使の魅力的な講演と懇親会も行いますので、多くの会員の皆様の御参加をお待ちしています。今後も当会は次代の我が国を背負う若い世代の皆様を対象とした各種活動を企画して発展したく考えますので、会員の皆様方のお一層の御支援と御協力をお願い致します。

第28回研修会

記念艦「三笠」と海上自衛隊田戸台分庁舎、猿島探索

平成30年4月8日(日) 10:00～

「日本を護る会」は例年ゴールデン・ウィークの時期に、我が国の近現代史において大変重要な意義を持つ日露戦争とそのクライマックスである日本海海戦を正しく理解するために、横須賀にあります記念艦「三笠」とその周辺施設を見学しておりますが、今年は4月8日若い世代を主体とした12名により、「三笠」、海上自衛隊田戸台分庁舎及び猿島を訪れました。当日は京浜急行「県立大学」駅に集合し、徒歩で田戸台分庁舎に向かいました。

海上自衛隊田戸台分庁舎

田戸台分庁舎は、現在海上自衛隊横須賀地区の飛び地となっており、迎賓などに使われています。元々は大日本帝国海軍が鎮守府司令官庁舎として作ったもので、当時の建設技術を駆使して建築し、和洋折衷の間取りとなっています。現用の施設は改修されているために一目見ると新しい建物に見えますが往時の雰囲気は今も伝えており、周囲には防空壕跡もあり興味深いものでした。

記念艦「三笠」

「三笠」へは、最近はずっかり横須賀名物となった海軍カレーを市内で食し、三笠公園に向かいました。記念艦として保存されている戦艦「三笠」は英国で建造されました。昭和初期の戦間期に軍縮条約の影響を受け廃棄することとなりましたが、保存の声が多く、軍艦としての機能を全く除去することを条件として、大日本帝国海軍の1番艦として横須賀に保存される事になったものです。明治38年5月27日に行われた日本海海戦において東郷平八郎連合艦隊司令長官座乗の「三笠」は連合艦隊旗艦としてロシアのバルチック艦隊を完膚無き迄に撃ち破って我が国をロシアの侵略から護った栄光を我が国民は誇りとして、永く後世に伝えなければなりません。「三笠」は大東亜戦争後の一時期はまったく姿を変えましたが、米海軍のニミッツ提督の勧めもあり、復元されて、その後関係者の御努力により、現在のように世界に冠たる記念艦となりました。今回は案内ツアーに加わったあと、各自めいめいで艦内を見学し、当時の様子を偲びました。

猿島

「三笠」に続いて猿島を見学しました。渡船で猿島にわたり1時間程の間でありましたが、島内をめぐることができました。猿島は東京湾に現在唯一存在する天然の島であり、幕末に最初に砲台が築かれ、明治期には浦賀水道を守る東京湾要塞に属する多数の砲台の一つとなりました。現在残る砲台部分は大東亜戦争期に再度、高射砲陣地として再整備されたものです。

これらの見学により、明治期の日本の国防への努力を再認識できた有意義な一日でした。

参加者の感想 会員 岩崎 真理さん

平成30年4月8日、日本を護る会、研修会にて、歴史ある田戸台分庁舎や世界の三大記念艦として広く知られている三笠や豊かな自然と歴史遺産が残る無人島猿島をめぐり三笠、田戸台分庁舎、無人島猿島の魅力を実感しました。



第75回定例会

演題 「人種差別撤廃を唱え、植民地解放に努めた日本」

講師 外交評論家 加瀬 英明 氏

平成30年5月10日(木) 18:30～ 銀座カフェ・ジュリエ



講師略歴

1936年東京生まれ。

慶應義塾大学、エール大学、コロンビア大学に学ぶ
「ブリタニカ国際大百科事典」初代編集長。昭和 52 年から福田、
中曽根内閣で首相特別顧問を勤めた他、日本ペンクラブ理事、
松下政経塾相談役などを歴任

著書に「大東亜戦争でいかに日本は世界を変えたか」他多数

人種差別撤廃を唱え、植民地解放に努めた日本

今年が明治 150 年に当たります。江戸時代末期に欧米諸国からの圧力を受けつつ我が国近代化に努力された当時の先人達は誠に立派だったと思いますが、現在の我が国は占領軍の政策が悪かった、と言うのみで墮落してしまいました。これでは「日帝 36 年の植民地政策のお陰だ」と何時迄も現状を日本にせいにして韓と変わりありません。一日も早く明治時代の先達の精神をとり戻す必要があります。

日本は無条件降伏をしたのではありません

昭和 20 年 9 月 2 日の米戦艦「ミズーリ」の艦上で行われた降伏調印式に、我が国全権団は「我が国は東亜諸国開放のための戦争に負けたのではない」との信念の下、天皇陛下を辱めないように最高礼服で臨みましたが、陸海軍の代表達は戦いに負けて降伏したのだ、との考えで最低の略服で臨みました。

不平等条約撤廃への先人達の努力

我が国は明治の開国と同時に欧米諸国から「関税自主権」「外国人の裁判権」を得られない等の不平等条約を押し付けられ、先人達はこの撤廃に血の滲むような努力をしました。現在も宮中晩餐会においてフランス料理が供されます。インドではインド料理、中国では中国料理など諸外国ではその国の料理が供されます。我が国でも「日本料理を出すべきだ」との意見もありますが、私は我が国が不平等条約を押し付けられた悔しさを忘れないために、今後もフランス料理を出すべきであると思います。

人種差別撤廃を主張した日本

我が国は第一次世界大戦の講和会議において人種差別撤廃を主張し、多数の賛成を得ましたが、議長ウイルソン米大統領は「このような重要な事は全会一致であるべきだ」として却下しました。

本来、我が国は、雑種の民族であり、縄文時代以来、1 万年以上に及び人間は皆平等であるとの観念があり、社会の成り立ち自体が人種とか宗教を区別しない伝統がありました。そもそも、我が国には自分だけが正しいとする宗教ありませんでしたし、宗教と言う概念そのものもありませんでした。

「八紘一宇」と言葉がこの事を現しています。

日本において朝鮮人に対する差別があったといわれますが、戦前、朝鮮人の王族がいて大変尊敬と敬意を払われていました。東郷茂徳のように朝鮮人の大臣もいたし、今でいう江東区から立候補して二度も衆議院議員に当選した朝鮮人もいます。また、東条英機関東軍参謀長が二万人のユダヤ人をナチスの手から護りました。よく知られている杉原千畝が訓令違反をしたというのは全くの嘘出鱈目で、同氏は我が国の方針にしたがったのです。

植民地解放に努めた日本

圧倒的な白人の支配から有色人種を解放したのが我が国の戦争でした。「大東亜戦争」という語が良くこの事を現しています。米国のヒューストン大学のジェラルド・ホーン教授は著書「人種戦争」において、フランス革命は市民を解放し、ロシア革命は労働者を解放したが、日本の戦争は圧倒的多数の有色人種を白人の支配から解放したのだ、と述べています。日本が人種解放のために始めた戦いを、大東亜戦争後もインドネシアの国民が戦い続けてくれました。宗主国のオランダがイギリスの支援を受けて、インドネシアの支配を復活しようとしたが、日本兵だった多数の日本人も手伝って、インドネシアは独立を果たしました。そして、その独立宣言文の日付には 2605 年と皇紀が使われています。この独立運動の先頭に立ったスディルマン陸軍大将の胸像がインドネシア政府から送られて、現在市谷の防衛省の記念館前にあります。毎年 8 月 17 日にこの像の前で、インドネシアの独立を祝う式典が行われますので、今年の 8 月 17 日の式典にも多くの皆様が御参列して下さい。

大東亜戦争直後に行われた、所謂、東京裁判において日本の侵略を追及した連合諸国は、アジア諸国を植民地として侵略していたのです。全くの茶番としか言いようがありません。

この日本の戦いがアジアから玉突き現象で、1960 年代にはアメリカの黒人も解放されました。アフリカ諸国も独立し、これらの国の黒人の外交官が米国の一流ホテルに泊まるようになり、米国の黒人の公民権運動に火をつけた結果、1960 年代初めにジョンソン大統領は黒人の公民権を認めざるを得なくなったのです。

戦後、有色人種扱いの中国人、朝鮮人と異なり、アパルトヘイト時代の南アフリカでも日本人は白人扱いとなりました。

我が国の先人達の御努力のお蔭で人種差別が撤廃され、世界の有色人種が解放された事実を我々日本人は誇りに思い、後世に伝えなければならないと思います。



第76回定例会

演題「朝鮮半島は日本安全保障の要」

日本は朝鮮半島の赤化を絶対許しては成らない

講師 元韓国空軍大佐 崔 三 然 空軍士官学校名誉教授

平成30年6月7日(木) 18:30～ 銀座カフェ・ジュリエ



講師略歴

1928年1月生れ、日本陸軍少年飛行兵学校入校〔昭和18年9月通信分科〕加古川教導航空通信団配属(昭和20年8月終戦)、韓国空軍〔1950年4月〕少尉任官、その後、空軍本部作戦参謀部編成課長、空軍本部秘書室長、空軍士官学校教授部長、空軍本部高級副官等を歴任され、1971年3月に退役。

社会活動：財団法人韓国油化試験研究所常任理事長、韓国中央大学社会開発大学院学生会長、同大学院同窓会会長、韓国空軍予備役将校会常任副会長 等

1. 北朝鮮の核をめぐる国際情勢の総括的概況

1) 北朝鮮の核は脅かしであり、国力の限界において実行力はない。

国際社会の優柔不断が北朝鮮の核開発を許し国際社会の制裁対象にまで拡大させた。韓国にはムンジェイン赤化政権出現により北朝鮮の目的は事実上達成寸前にあり、駐韓アメリカ軍のみが北朝鮮の障害となる。

2) 米国は極東においてインド・太平洋時代を宣言し、中国の覇権掌握に制動をかける長期戦略に出ている。米太平洋軍司令部がインド太平洋軍司令部に改編された。

UNによる国際社会の経済制裁で、北朝鮮はアメリカの要求に応じざるを得ない極限の状態に追い込まれている。米朝首脳会談の結果は予測不可で多くの変数が働いている中、日本としては最悪の事態に対応できるよう、独自の戦略を講じなければならない。

3) トランプ主導下の問題点：

原理原則の不在。Authenticity, 権威, 正統性が見えない。Gambling 状態。

外観は米、朝の協議であるが、中身は朝鮮半島を取り巻く大陸赤化勢力と自由陣営海洋勢力との覇権戦争である。

2. 韓国赤化の真相

1) 北朝鮮の主思派勢力と文政権の台頭

軍事政権下民主化学生運動のリーダー、北朝鮮と内通する赤化勢力、国家保安法処罰者多数、傑物なし、政治はアマチュア。国体を社会主義国家に転覆し、改憲を通じて南北統一を企図。究極的目標は連邦制南北統一（社会主義国家化）

- 2) 韓国歴代大統領(特に金大中、盧武鉉)による赤化の急進展
- 3) 民主化を仮装した暴動事件のすべてが北朝鮮と韓国内赤化勢力が組んだ赤化工作
麗水反乱事件 1948、済州島反乱事件 1948、釜馬事態 1979、光州暴動事件(5. 18)1980
アメリカ産牛肉騒動、米軍装甲車韓国人女子学生轢死事件、天安号爆沈事件、セウォル号海難事件、
朴クンヘ・崔スンシル事件、蠟燭デモ、朴クンヘ大統領弾劾
- 4) 韓国赤化の決定的契機となった 5. 18 光州暴動事件 (1980, 5, 18)
 - (1) 1980 年金大中が朴正熙大統領暗殺後 (1979, 12. 12) 不安定な政情の隙を狙い光州で起こした共産主義者による暴動に対し、全斗煥、盧泰愚を拘束し民主化運動と宣言した。爾後盧武鉉に至り 5, 600 名に上る共産勢力を光州民主化運動功労者とし、各種の特恵を与えることにより、赤化勢力の量産に繋がる結果を齎した。
 - (2) 北朝鮮軍介入の真相を、2014. 10、池萬元氏(保守派の代表格なる人物)が暴露
 - (3) 北朝鮮軍介入を否定する一部の保守勢力。北の介入説を弾圧した朴クンヘ政権
北朝鮮の光州浸透軍生還者が再び対韓国工作に投入されている。トロイの木馬。
 - a. 光州事件当時浸透した特殊軍約 600、民間工作要員約 600、そして、当時北朝鮮高位職にいたとされる 563 名の中の約 60 名が偽装脱北者と判明。彼らは韓国の要路で活動中。2016 年、池萬元氏が KCIA(韓国の保安当局)にスパイとして告発したが黙々不答。
 - b. 2014. 10 の仁川アジア競技大会に金正日専用機で光州浸透要員多数が韓国入り、某略工作をした疑惑。ピョンチャンオリンピックにも浸透要員が入り、同種の工作を行っているという疑惑(浸透確認者 478 名が一気に 563 名に増える)。

3. 自由韓国復元の可能性

- 1) 韓国崩壊の震源
 - (1) 地政学的環境から来る独特で異質的な国民性：事大主義、他力本願、排他主義、不偏の価値観欠如、ソシオパス症候群の状態
 - (2) 李朝 500 年の苛斂誅求がもたらした諸々の積弊、慣例
 - (3) 北朝鮮の赤化工作
- 2) 保守愛国勢力の現状
 - (1) 政治勢力の過半が赤化勢力とコラボの状態
 - a. 保守の主流が李明博、朴クンヘ派で 5. 18 問題で赤化勢力とコラボ。
 - b. 反共最後の砦ともいえる在郷軍人会、自由総連盟の 2 団体までもが左翼とコラボの状態
 - c. 在野保守言論と関係団体の過半も左翼とコラボの状態
 - (2) 愛国勢力の活動
日、韓、米同盟緊要の主張する愛国勢力の存在。韓国の正当性と道徳的権威を掲げ国家反逆赤化勢力と果敢に戦う愛国国民の存在には確固たるものがある。遅い感はあるが国民が目覚め始めている。

4. 日本の戦略対応

- 1) 歴史に見る朝鮮半島の安全保障上の重要性
中国の覇権主義に対するアメリカの牽制政策、大陸勢力対海洋勢力の対決構図化

北朝鮮の核戦力と韓国の赤化政権台頭に対する日米の戦略転換の必要性

2) 戦略転換の方向性 (一般的概念)

- (1) 自由韓国というバッファー(緩衝)ゾーンが消滅する (中国の北朝鮮認識と日本の認識の差異)
- (2) 韓国の愛国勢力を助け自由韓国の復元を米国と協力

3) 日本として主張すべき戦略 (日本独自の安保概念)

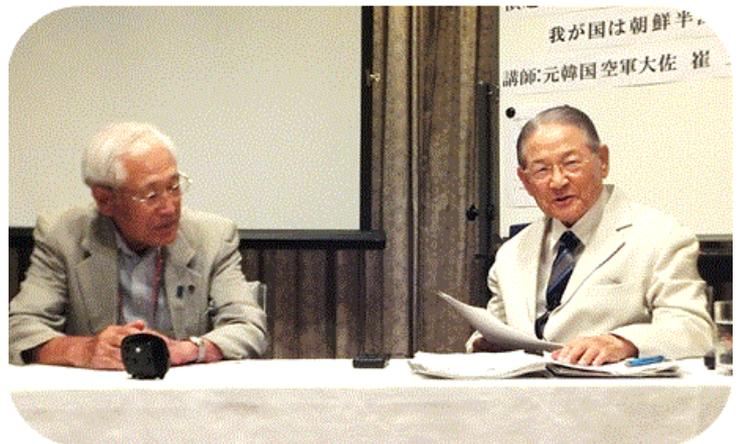
- (1) アメリカの今日の極東政策の維持、成功の土台には日本という浮沈空母とも言える基地の存在がある。朝鮮半島問題に関する限り日本としては相応の権利を主張すべきである。アメリカのトランプ政権に任せきりの今の状況では危ない。
- (2) 北朝鮮は妥協の対象に在らず、抹消すべき対象である。韓国は更に悪質で、自由世界は背信の責任を追求すべきである。

4) 米朝首脳会談の成功後の朝鮮半島管理に関する提言

- (1) 北朝鮮はUNによる国際管理、若しくは日米中による分割信託統治
- (2) 韓国は日米による親日親米政権樹立、日米韓3国同盟関係構築

5) 日本に捧げる提言

- (1) 憲法改正は当たり前の国家化
- (2) 日本の日本たるを認識、日本は地球人類最後の砦、極東否世界のリーダーに浮上すべきである。



事務局からのお知らせ

本年度最後のレポートとなりましたが、この一年に皆様からご協力、サポートをいただきましたことに事務局より深く感謝申し上げます。お陰様にて銀座カフェ・ジュリエにて演者をお招きしての定例会、また各種研修会とそれぞれ充実をした活動を行うことができました。来年度は会発足10周年を迎え、更なる発展を目指していくこととなります。今後とも皆様の一層のご協力を賜りたく何卒よろしくお願いたします。9月1日(土)に予定されている第10回定時総会は改めて皆様にご案内をさせていただきますが、節目の大変大切な総会になりますので是非今から予定をして頂きますようお願いいたします。

また事務局では皆様の忌憚のないご意見、ご要望など歓迎をしていますので下記のメールアドレスにお寄せください。

今後の予定

- 7月12日(木) 第29回研修会 国会議事堂見学
8月3日(金) 第30回研修会 市ヶ谷台ツアー
9月1日(土) 第10回 定時総会 及び
駐日エルサルバドル大使による講演 於:水交会
10月11日(木) 第77回定例会「我が国のエネルギー政策と原子力発電」(仮題)
講師:日本エネルギー経済研究所 参与 十市勉氏

新会員のお誘い

当会では、お友達など会の趣旨に賛同していただける会員を広く募集致しております。

年会費お振り込み先

① ゆうちょ銀行

(ゆうちょ銀行からの振り込みの場合) 記号10380 番号 92589171

(ゆうちょ銀行以外からの振り込みの場合) 店番 038 普通預金 口座番号 9258917

名義 特定非営利活動法人 日本を護る会・日本ネイビークラブ

② 三井住友銀行

三井住友銀行 店番号 516 普通預金 口座番号 74410697

名義 特定非営利活動法人 日本を護る会・日本ネイビークラブ

日本を護る会・レポート 第31号 平成30年6月発行

編集発行: 特定非営利活動法人 日本を護る会

ホームページ: <http://awake-japan.sakura.ne.jp>

E-mail: awake-japan@googlegroups.com